

サロベツ湿原で記録されたホシクサ科植物の検証

雨竜町 佐々木 純一
福岡市 佐藤 広行¹

ホシクサ科 *Eriocaulaceae* と著者の一人である佐々木との出会いは1999年8月、北海道大学の高橋英樹助教授（現、北海道大学名誉教授）による雨竜沼湿原のフロラ調査の時だった。高橋先生から「ここで *Eriocaulon* は報告されているかい」と聞かれ、現物を見せてもらいこれはスゲの小苗かと思うも、当時はホシクサという種は知らなかった。後に雨竜沼湿原で新産地報告され知ることになるカラフトホシクサが、湿原全域の池塘縁や泥土などで生育しているのを観察した。

足繫く通ったサロベツ湿原には、北海道に産する高等植物の種名や生育地をまとめ

た北海道高等植物目録Ⅱ 単子葉類（伊藤ら1990）で、ホシクサ科は13種が記載され、地域固有種としてサロベツ原野からサロベツホシクサ *Eriocaulon monococcon* Nakai var. *confusum* Ko.Ito とムツイヌノヒゲ *E. miquelianum* Koernicke var. *involucratum* Nakai の2種があると記されていた。

数年前から豊富町の嶋崎暁啓さんに「サロベツ湿原で唯一サロベツの名を冠した、サロベツホシクサはどんな植物ですか」と聞かれていた。湿生植物であるホシクサ属植物を各地で観察するごとに、サロベツホシクサの存在を確認したいと強く惹かれ、サロベツ湿原を踏査するに至った。



図1 下サロベツ湿原の景観